陳情第４号

国に「皇室典範」改正の討議を求める陳情

陳情の趣旨

時は今、「皇室典範」は令和の時代に即応しません。男系皇族は終身皇族として保障されていますが、女系皇族は、女性というだけで天皇になれません、そればかりか結婚すると一般人に降嫁してしまいます。これは生まれながらの最大の性差別です。ジェンダーフリーの時代に、絶対そぐわない制度です。

特に宝塚市は、中川智子・前市長、山﨑晴恵・現市長がともに女性です。特に女性議員の比率が高く、過半数を超えていて、日本で二番目の高さです。その上自治会連合会会長、防犯協会会長、自衛隊後援会会長、宝塚商工会議所副会頭、（ＮＰＯ法人）宝塚ＮＰＯセンター理事長なども女性です。よって政策立案や意思決定に女性の視点が反映されています。

日本国は、国民を大切にする象徴天皇、天皇を敬う国民、ともに助け合い支えあうのがあるべき姿です。しかし現在の「皇室典範」は、ジェンダーフリーの観点からそぐわない制度です。天皇に範となっていただきたい、国会でぜひ討論していただきたく切望致します。

陳情の項目

１　宝塚市議会から国会や政府に対し、国会で最大の性差別である「皇室典範」改正の討議を行うよう意見書の提出を求めます。

以上

令和６年（２０２４年）２月２２日

宝塚市議会議長　冨　川　晃太郎　様

陳情者 [redacted]